

三好棒の手保存会の歩み



(平成24年10月8日 黒笹八幡社にて)

平成25年9月吉日

三好棒の手保存会

はじめに

平成25年度三好棒の手保存会長 塚本 鎔

みよし市に初めて棒の手が伝承された時代は定かではありませんが、明治時代までは各地で盛んに行われていたようです。戦争の影響もあって中断されて以後、昭和40年代に復活の兆しがありましたが、長くは続かなかったようです。昭和59年に北部小学校で棒の手クラブが発足し復活しました。以後、今日まで約30年にわたり継承を続けてまいりました。

無形文化の継承は、むずかしいものです。人から人へと技をつないでいかなければならないからです。この間、昭和から平成の年代に移り変わり、時代は、国際社会へと大きく変化してきました。みよし市も町から市へと大きく躍進してまいりました。30年前と比較して人口増は顕著で街並みもすっかり変貌しています。変わるものと変わらないものがある中で、棒の手という文化は、昔ながらの伝統文化であり、変わらないものに分類されるかと思います。

ここに30年間のまとめをし、一つの節目としたいと思います。



平成24年 昴生農村公園での練習風景

目次

はじめに

| | | |
|---|--------------|------|
| 1 | 保存会設立以前の歴史 | P 1 |
| 2 | 保存会の発足から現在まで | P 3 |
| 3 | 会員の声 | P 14 |
| 4 | 鎌田流棒目録 | P 19 |
| 5 | 目録伝授式 | P 21 |



平成24年8月26日 三好稲荷閣祭にて

1 保存会設立以前の歴史

(1) 明治までの三好の棒の手

三好町誌第三巻には次のような記述がある。

三好町の「棒の手」（猿投神社に参詣した）記録が表れるのは、「筋生村文書」、「黒笹村文書」の中の「猿投山御祭礼廻文帳」に記述として残っている。宮口合属に属していた、打越村、明知村、北筋生村、南筋生村、三好村の5カ村については文政2年（1819）、北筋生村は文政3年（1820）、南筋生村は文政10年（1827）、明知村は天保8年（1837）の廻文に村名が表れている。次に、「棒の手」の記録の表れる最終年は、黒笹村では明治43年（1910）、筋生村では明治41年（1908）の猿投神社の祭礼及び合属関係の文書が残っている。「棒の手」に関する区有文書記録が残されているのは、この二つの村だけである。いずれにしても、三好村では慶応以前、福谷村では昭和7年頃、打越村では昭和11年頃を最後に「棒の手」が行われなくなってしまったと伝えられている。

三好の棒の手は、三好、西一色、明知、打越、筋生が宮口合属、福谷、黒笹が南尾張合属に属しており、猿投神社への奉納はもちろんであるが、地元の祭礼でも盛んに行われていたと思われる。では、なぜ行われなくなったかについては、昭和の初めから日本は相次ぐ戦争の時代に突入したのが一番の理由であろう。

(2) 昭和時代の三好の棒の手

三好町誌によると、打越地区で昭和35年に奉納した。数年は続けられたものの後継者がいなくてその後は行っていない。

当時は棒の手を演技したことがある人が生存していたと思われる。

(3) 北部小学校棒の手クラブ



北部小学校で昭和59年に正課クラブで棒の手クラブができ、週1回の練習で戸打、差合の演技を習得した。郷土芸能伝承活動発表会や安城学園高校の文化祭にも出演した。また、郷土芸能伝承活動発表会にも出演した。



3 保存会の発足から現在まで

昭和62年度（1987.7～1988.6）

10月10日 きたよし地区祭礼

保存会長 杉本 金光（福谷）

昭和63年度（1988.7～1989.6）

10月10日 きたよし地区祭礼

保存会長 杉本 金光（福谷）

会員 小学生 19名

中学生 19名

大人 5名

平成元年度（1989.7～1990.6）

7月13日 総会

8月17日 練習開始

9月20日 郷土芸能伝承活動発表会

10月10日 きたよし地区祭礼

保存会長 武田 仁（黒笹）

会員 小学生 15名

中学生 18名

高校生 5名

大人 4名

平成2年度（1990.7～1991.6）

7月17日 総会

8月 7日 練習開始

9月30日 郷土芸能伝承活動発表会

10月10日 きたよし地区祭礼

保存会長 武田 仁（黒笹）

会員 小学生 22名

中学生 11名

高校生 5名

大人 4名

平成3年度（1991.7～1992.6）

6月30日 総会
7月28日 練習開始
8月25日 三好稻荷閣祭
9月14日 郷土芸能伝承活動発表会
10月10日 きたよし地区祭礼

保存会長 中島 清司 (高嶺)
会員 小学生 36名
中学生 8名
高校生 2名
大人 4名

平成4年度 (1992. 7~1993. 6)

6月28日 総会
7月23日 練習開始
8月 1日 三好丘盆踊り
8月23日 三好稻荷閣祭
9月12日 郷土芸能伝承活動発表会
10月10日 きたよし地区祭礼
10月25日 92彫刻フェスタ

保存会長 中島 清司 (高嶺)
会員 小学生 31名
中学生 5名
高校生 11名
大人 4名

平成5年度 (1993. 7~1994. 6)

7月 4日 総会
7月24日 練習開始
7月31日 三好丘盆踊り
8月 8日 三好丘緑盆踊り
8月22日 三好稻荷閣祭
9月12日 郷土芸能伝承活動発表会
10月11日 きたよし地区祭礼
10月31日 93彫刻フェスタ

保存会長 近藤 正行 (昉生)
会員 小学生 30名
中学生 4名
高校生 11名
大人 7名

平成6年度 (1994. 7~1995. 6)

7月10日 総会
7月21日 練習開始
8月 6日 三好丘緑夏祭り
9月 4日 三好稻荷閣祭
9月10日 郷土芸能伝承活動発表会
10月10日 きたよし地区祭礼
11月12日 三好丘文化祭
11月13日 94彫刻フェスタ

保存会長 近藤 正行 (昉生)
会員 小学生 14名
中学生 7名
高校生 11名
大人 7名

平成7年度 (1995. 7~1996. 6)

7月16日 総会
7月23日 練習開始
8月19日 棒の手会館見学会
8月20日 三好稻荷閣祭
8月26日 郷土芸能伝承活動発表会
10月10日 きたよし地区祭礼

保存会長 近藤 政之 (福谷)
会員 小学生 14名
中学生 9名
大人 13名

平成8年度（1996. 7～1997. 6）

6月16日 総会
7月21日 練習開始
8月25日 三好稲荷閣祭
9月21日 郷土芸能伝承活動発表会
10月10日 きたよし地区祭礼
10月13日 トヨタ明知工場「明知はつらつフェスティバル」出演
期日不明 北部小学校国際交流コンサート出演
北中学校国際理解集会出演

保存会長 近藤 勇平（黒笹）
会員 小学生 14名
中学生 9名
大人 14名

平成9年度（1997. 7～1998. 6）

7月13日 総会
7月20日 練習開始
8月24日 三好稲荷閣祭
9月 6日 郷土芸能伝承活動発表会
10月10日 きたよし地区祭礼
10月19日 名古屋刑務所矯正展アトラクション

保存会長 竹内 春男（高嶺）
会員 小学生 2名
中学生 6名
高校生 4名
大人 9名

平成10年度（1998. 7～1999. 6）

6月21日 総会
7月19日 練習開始
8月23日 三好稲荷閣祭
9月12日 郷土芸能伝承活動発表会
10月10日 きたよし地区祭礼
10月18日 名古屋刑務所矯正展アトラクション



第1回目録伝授式

11月28日 第1回 目録伝授式
伝授者 黒田和秀、鬼頭正勝、近藤 晃
今井英善、木村徹也

保存会長 近藤 善彦 (訪生)
会員 小学生 2名
中学生 6名
高校生 5名
大人 14名

平成11年度(1999.7~2000.6)

7月 4日 総会
7月20日 練習開始
8月22日 三好稻荷閣祭
9月11日 郷土芸能伝承活動発表会
9月15日 三好上地区・敬老会アトラクション
10月11日 きたよし地区祭礼
10月24日 ホームページ開設
10月30日 名古屋刑務所矯正展アトラクション

保存会長 後藤 眞治 (福谷)
会員 小学生 18名
中学生 0名
高校生 2名
大人 8名

平成12年度(2000.7~2001.6)

7月 9日 総会
7月22日 練習開始
8月20日 三好稻荷閣祭
9月 9日 郷土芸能伝承活動発表会
9月15日 三好上地区・敬老会アトラクション
10月 9日 きたよし地区祭礼
10月22日 三好中央街開きイベント

保存会長 加納喜代三 (黒笹)
会員 小学生 19名



| | |
|-----|----|
| 中学生 | 5名 |
| 高校生 | 2名 |
| 大人 | 9名 |

平成13年度（2001. 7～2002. 6）

| | |
|--------|----------------|
| 6月30日 | 総会 |
| 7月21日 | 練習開始 |
| 7月28日 | 三好丘桜夏祭り |
| 8月11日 | 研修会（猿投棒の手会館見学） |
| 8月26日 | 三好稻荷閣祭 |
| 9月 8日 | 郷土芸能伝承活動発表会 |
| 10月 8日 | きたよし地区祭礼 |

| | |
|------|-----------|
| 保存会長 | 近藤 立身（昉生） |
| 会員 | 小学生 22名 |
| | 中学生 5名 |
| | 高校生 2名 |
| | 大人 9名 |



三好稻荷閣祭

平成14年度（2002. 7～2003. 6）

| | |
|--------|-------------|
| 7月13日 | 総会 |
| 7月23日 | 練習開始 |
| 8月25日 | 三好稻荷閣祭 |
| 9月14日 | 郷土芸能伝承活動発表会 |
| 10月14日 | きたよし地区祭礼 |
| 2月25日 | 出前講座（北部小） |

| | |
|------|----------|
| 保存会長 | 林 勝則（福谷） |
| 会員 | 小学生 32名 |
| | 中学生 6名 |
| | 高校生 0名 |
| | 大人 11名 |



三好稻荷閣祭

平成15年度（2003. 7～2004. 6）

| | |
|-------|------|
| 6月28日 | 総会 |
| 7月23日 | 練習開始 |

8月24日 三好稲荷閣祭
 9月13日 郷土芸能伝承活動発表会
 10月13日 きたよし地区祭礼
 「コミュニティみよしがおか」101号 掲載

保存会長 加納 辰夫 (黒笹)
 会員 小学生 31名
 中学生 3名
 高校生 3名
 大人 11名

平成16年度(2004.7~2005.6)

5月30日 とよかも劇場
 6月26日 総会
 7月21日 練習開始
 7月24日 あおば夏祭りカヌーポロ歓迎会アトラクション
 8月 8日 高嶺夏祭り
 8月22日 三好稲荷閣祭
 9月11日 郷土芸能伝承活動発表会
 10月11日 きたよし地区祭礼

保存会長 勝野 増吉 (高嶺)
 会員 小学生 31名
 中学生 7名
 高校生 4名
 大人 11名



とよかも劇場出演

平成17年度(2005.7~2006.6)

6月12日 総会
 7月23日 練習開始
 7月30日 三岳村交流事業アトラクション
 8月 7日 万博リハーサル
 8月21日 三好稲荷閣祭
 8月22日 万博 三好町の日参加

10月10日 きたよし地区祭礼

保存会長 中根 忠道 (昉生)
会員 小学生 42名
中学生 6名
高校生 9名
大人 13名



愛地球博

平成18年度(2006.7~2007.6)

6月18日 総会
7月22日 練習開始
8月20日 三好稻荷閣祭
9月9日 郷土芸能伝承活動発表会
10月9日 きたよし地区祭礼
ひまわりネットワーク取材「みよしtoday」
三好町観光ガイドブック
写真掲載

保存会長 林 勝夫 (福谷)
会員 小学生 35名
中学生 8名
高校生 7名
大人 11名



高嶺祭礼

平成19年度(2007.7~2008.6)

6月10日 総会
7月23日 練習開始
8月26日 三好稻荷閣祭
9月8日 郷土芸能伝承活動発表会
10月8日 きたよし地区祭礼
11月4日 豊田の棒の手県指定
50周年記念事業参加



50周年記念事業

保存会長 鈴木 輝二 (黒笹)
会員 小学生 38名
中学生 6名

高校生 5名
大人 13名

平成20年度(2008.7~2009.6)

6月28日 総会
7月23日 練習開始
8月24日 三好稲荷閣祭(雨天中止)
9月6日 33ch「三好散歩道」撮影
9月13日 郷土芸能伝承活動発表会、33ch取材
10月13日 きたよし地区祭礼
11月29日 三好養護学校文化祭(はあとまつり)生徒と合同演技

保存会長 光岡 靖夫(高嶺)
会員 小学生 22名
中学生 11名
高校生 4名
大人 16名



平成21年度(2009.7~2010.6)

6月10日 総会
7月22日 練習開始
8月23日 三好稲荷閣祭
9月13日 郷土芸能伝承活動発表会
10月12日 きたよし地区祭礼

保存会長 加藤 正人(昉生)
会員 小学生 16名
中学生 14名
高校生 4名
大人 14名



平成22年度（2010. 7～2011. 6）

- 6月12日 役員会
- 7月21日 練習開始
- 8月20日 天王児童クラブ棒の手体験教室
- 8月22日 三好稲荷閣祭
- 9月12日 郷土芸能伝承活動発表会
- 10月 8日 三好演劇塾棒の手指導
- 10月11日 きたよし地区祭礼
- 10月30日 三好丘旭行政区文化祭（台風で中止）

保存会長 鈴木 要（福谷）
会員 小学生 13名
中学生 16名
高校生 5名
大人 15名



郷土芸能伝承活動発表会

平成23年度（2011. 7～2012. 6）

- 6月17日 役員会
- 7月22日 練習開始
- 7月23日 三好丘桜夏祭り
- 7月30日 ひばりヶ丘夏祭り
- 8月 4日 ひまわりネットワーク「よーいどん！」出演
- 8月21日 三好稲荷閣祭（雨天中止）
- 9月11日 郷土芸能伝承活動発表会
- 9月15日 出前講座（三好丘小・3年総合）
- 10月10日 きたよし地区祭礼

保存会長 加納 勇（黒笹）
会員 小学生 11名
中学生 5名
高校生 8名
大人 14名



三好丘桜行政区夏祭り

平成24年度（2012. 7～2013. 6）

導

- 6月17日 役員会
7月23日 練習開始
7月28日 ひばりヶ丘夏祭り
8月4日 高嶺夏祭り
8月26日 三好稲荷閣祭
8月29日 千種聾学校運動会演技指
9月9日 郷土芸能伝承活動発表会
10月8日 きたよし地区祭礼
2月17日 北部コミュニティ芸能大会
2月28日 出前講座（緑丘小学校・3年社会科）



- 保存会長 小嶋謙五（高嶺）
会員 小学生 9名
中学生 8名
高校生 13名
大人 17名

平成25年度（2013.7～2014.6）

- 6月16日 役員会
7月22日 練習開始
7月27日 ひばりヶ丘夏祭り
8月4日 高嶺夏祭り
8月25日 三好稲荷閣祭
9月5日 名古屋テレビ「ドデスカ」出演
9月8日 郷土芸能伝承活動発表会
9月23日 目録伝授式



伝授者 鈴木幹浩、鈴木彬之、藤田勇平、伊藤いあん
大山裕也、永田楽揮、稲垣創平、古河陽太

- 10月14日 きたよし地区祭礼
10月19日 けやきワークス「よっていきん祭」出演

- 保存会長 塚本 鋳（筋生）
会員 小学生 14名
中学生 5名

| | |
|-----|-----|
| 高校生 | 5名 |
| 大人 | 14名 |

4 会員の声

棒の手との出会い

黒田和秀

私と棒の手の出会いは、教師になったばかりの平成4年。三好丘小のグラウンドで練習をしていた保存会の小栗先生に声をかけてもらったことがきっかけです。それから20数年が過ぎ、今は指導者の一人として保存会に所属しています。棒の手の魅力は？と聞かれて一番に答えるのは、「人とのつながり」です。棒の手の演技は、ほとんどが二人一組です。相手が居るから息を合わせてできるのです。相手との気持ちのつながりがないとうまくいきません。また、世代を超えた人とのつながりで昔から代々伝わって今に至っています。そんな「人とのつながり」が魅力の一つだと思っています。

三好棒の手保存会は、これからも細く長く、続いていくことでしょう。その一時代にかかわることができたことは、とても喜ばしいことです。これからも地元の小中学生に型を教えながら昔から伝わって来た大切な「人とのつながり」の中にある「心」も一緒に伝えていきたいと考えています。

「三好棒の手保存会の歩み」に寄せて

鬼頭正勝

平成25年の今年、鎌田流棒の手目録伝授式が行われる。三好棒の手保存会としては二度目、私が指導者の立場になってからは初である。

私が目録伝授者となったのが平成10年のことである。それから15年、物事を続けていくことの難しさを痛感している。私自身、進学や就職で棒の手の活動に参加できない時期があった。それは過去参加してくれていた子供たちも同様で、大半の人が様々な理由で棒の手から離れていった。そのような状況の中、新たな目録伝授者が誕生することは率直にうれしく思う。

伝統芸能は本人の努力はもちろんだが、様々な方のご協力があっはじめて続けていくことができる。みよし市北部の各神社奉賛会をはじめとして、各行政区のご協力を頂き、ここまで存続させることができた。言葉では足りないほど感謝の念を持っている。

今回の目録伝授式で後継者不足の問題にも光明が見えてきた。新たな目録伝授者は私たちの世代とはまた違った感性や考えを持っている事だろう。それを取り入れ、お互いに切磋琢磨し、新たな三好棒の手保存会をスタートさせたいと考えている。

棒の手を次の世代に

鈴木幹浩

27年前の夏休み…西日が傾く当時の三好町立北中学校。部活動が終わり、生徒らが家路を急ぐ。私たち数人は、そのまま学校に居残り、静寂に包まれた校舎の教材室へ。棒や太刀など、道具を抱えて再び運動場へ出るところ、小学生も集まってくる。

深田先生、小栗先生のもと、練習が始まる。三好棒の手保存会の創成期の今と変わらない光景である。不肖ゆえ、当時は二人の師がどのような信念・情熱をもって活動していたのかを推し量れなかった。技の練習や、郷土芸能発表会、祭礼奉納など、自らのことだけで精一杯だった。

高校を卒業し、地元を離れて8年…外に出て改めて、地域に根差した文化芸能伝承活動の意義も、またそれを継続し続けていくことの重みも感じるようになった。久しぶりに地元に戻り、今度は運営の立場にもなった。毎年の総会での承認など、地域の方々の理解の上に活動が成り立っていることに携わるようになり感謝の気持ちになった。

復活したみよし市の棒の手を次の世代に引き渡していく重責を、当時来の仲間とともに楽しく担っていきたい。

棒の手からいただいたかけがえのないもの

鈴木彬之

初めて棒の手保存会の活動に参加したのは、私がまだ小学校に入ったばかりの頃だったと思う。なぜ参加したのか、とよく問われるが、理由は単純。ただ兄が参加していたから、それについていっただけである。

あれから20年が経ち、私もすっかり大人になってしまった。そして今回、鎌田流棒の手の目録を伝授していただけることになった。長年続けてきたことがこうして形になることは、非常に嬉しいし、誇りに思えることだ。

そんな節目の年を迎え、ふと思ったことがある。ここまで棒の手を続けることができたのは、なぜだろうか。いろいろと熟考してみたが、たどり着いた答えはやはり単純。ただ、楽しかったからだ。祭礼などで練習の成果を発揮することはもちろん、先生方や先輩たちのお話から人生について学ばせていただいたり、無邪気にはしゃぐ子供たちから元気をもらったり。棒の手の保存会からは、本当に多くのかげがえのないものをいただいた。

私はこれからも、棒の手を続けていきたいと考えている。私自身がこれまでに経験したことと、これから経験していくことが、少しでも保存会のためになるのならば幸いである。

棒の手を次世代へ引き渡す立場に

藤田勇平

私が棒の手に興味を持ったのは小学5年生の時でした。地元の筋生神社のお祭りに行った時に棒の手の演技を間近で見て、自分もやってみたいと思い、翌年から練習に参加しました。当時は自分自身に演技ができるかどうか不安でしたが、諸先生方のご指導のおかげでしっかりと型を覚えることができ、本番でも満足のできる演技をすることができました。目録を伝授するに当たり、私は次の世代へ引き渡す立場になります。今まで伝承してきたことを後世に残せるよう地域活動に尽力し、みよしの棒の手の発展に貢献していきたいです。

感動してもらえるような演技をめざして 伊藤いあん

棒の手の鎌田流は、みよし市の伝統芸能。私は棒の手を始めて今年で12年目になります。あまり見ない道具や演技を見て楽しそうだと感じて始めた棒の手でした。今では、お客さんの前で演技をする楽しさを覚え、さらに“みよしの伝統を大切に、みんなに伝えていきたい”と思うようになり、ここまできました。

演技に対しては、年を重ねるごとに考え方や意識する事が変わったり、先輩方を見習ってなりきって演技をしたり、演技に集中して自分なりに磨きをかけるようになりました。法被を着る事に抵抗を感じる人もいるかもしれませんが、私は法被を着て刀などを持って堂々と演技をする姿は、とてもカッコいいと思います。

私の動きには、まだまだ甘い所も多く、リズムでしか演技を覚えていないので、これからも目標を持ち、たくさんの方の演技をこなせるよう頑張ります。また、お客さんに感動してもらえるような演技が出来るようになりたいです。

迫力のある演技をめざして

大山裕也

僕は中学3年生から棒の手を始めました。始めは銀詰を教えてもらいました。形を覚えるのは難しくありませんでした。しかし自分たちの演技にはなぜか迫力がありませんでした。大人の方の演技を見たときに自分達に足りないものが分かりました。それは『声』と『間』でした。声の大きさにより迫力が増し、また間の開け方により緊張感を作り出す事が出来ることが分かりました。自分たちの演技にあった『声』と『間』を取り入れることにより、他の人とは違う銀詰の演技が出来ました。この時、僕は棒の手はとても奥深いものだと感じました。

今年、僕たちは目録を伝授していただく事になりました。僕は始めて間もないし、技術面ではまだまだ未熟者です。しかし演技する人や見る人たち全員が棒の手でしか味わえない緊張感や迫力を楽しめるように、僕が棒の手を通じて感じてきた事を小さい子たちに教えていきたいと思います。そして僕も共に成長して他の人に負けないような演技を出来るように努力していきたいです。

教わる立場から教える立場に

永田楽揮

僕が棒の手を始めたのは、中学3年生の時でした。始めた理由は、友人に誘われたからというのがありますが、単純に「楽しそうだったから」「格好良かったから」というのが大きな理由です。

こういうわけで始めた棒の手ですが、簡単にできるものではありませんでした。演技の型は覚えるのが難しいものも多かったし、模擬刀は片手で扱うには重く、腕力も必要です。腰を低く落として練習をしていると、筋肉痛になることもあり、大変なものでした。しかし、こういう辛さを乗り越えて難しい演技が出来るようになった時は、かなり達成感があります。また、相手と動くタイミングを合わせたり、友人や先生に見てもらったりして演技の質を高めていくのも棒の手の魅力だと思っています。

今年は目録伝授式もあり、僕達は教わる側から教える側になってきます。自分達が教わってきた棒の手の伝統を次の世代に伝えるためにも、よりいっそう技術を磨いていきたいです。

伝授者としてふさわしい人に

稲垣創平

棒の手を始めて今年で9年目になります。棒の手を始めたころは小学4年生で、今と比べれば形もあやふやで、下手くそでした。始めたきっかけは友達に誘われたというのと、小さいころから木の枝を使ってチャンバラをするのが好きだったからです。チャンバラに近くて、なおかつ格好いい型がある棒の手は、まさに理想的でした。そんなこんなで、あれよあれよと8年が経ち、今に至ります。今や、型もほとんど覚え、今はその覚えた型を究める段階に入っています。型を覚えるだけで精一杯だったころとは違い、あまり言われてこなかった足腰のきちんとした動きなど、改めて言われると癖が抜けなかったりと難しいし、キツイです。でも、本番で今まで出来なかったことが出来る嬉し

何より格好いいです。そして、今年は棒の手の目録伝授式があります。伝授される者として相応しい者になれるようより一層頑張っていきたいです。

仲間とともに

古河陽太

今回、目録を伝授して頂けることとなり、私は心から感謝をしています。それには仲間の存在がありました。

私は小学1年生の時に棒の手と出会い、活動をしてきました。その当時は自分以外にも子どもがいたため、にぎわい、楽しく練習ができていましたが、年ごとに人が抜けたり、入ったりを繰り返していました。そのため、私の中では活動に対する意欲が薄れていました。しかし数年前、同じ年代の仲間が活動に参加するようになりました。そのおかげで私はやる気を出すことができました。仲間のおかげで心から棒の手を楽しみ、意欲を出すことができたうえに、目録をいただけることとなったのは、とてもうれしいことです。

私はこれを機会に一層の情熱をもって棒の手の活動に参加していきたいと思っています。まだまだ私の演技は未熟そのものですので、なんとか大人の方々の迫力ある演技に近づくことが出来るようにこれからも精進します。

参考文献

- ・三好町誌 第一巻 P369～P375 昭和37年
- ・三好の棒の手 三好町棒の手保存会 平成2年
- ・写真でつづるふるさと三好 P102, P117, P142 平成10年
- ・三好町誌 第三巻 P540～P543 平成10年
- ・21世紀へ翔ぶ「ふるさと三好」 P159～P160 平成11年
- ・打越区誌 P267～P270 平成15年
- ・黒笹区誌 P350～P360 平成16年
- ・新編三好町誌資料編 歴史 P36 平成22年
- ・みよしの民俗 P467～P485 平成23年
- ・新編三好町誌本文編 P991～P999 平成25年

三好棒の手保存会ホームページ

URL <http://www.geocities.jp/miyoshibounote/>